

こまつの町人ぶんか

町衆の心意気に触れて見て

こまつのお茶

小松城に隠居した加賀藩三代藩主前田利常は、茶の湯に一方ならぬ興味を持ち、小松城の葭島に茶庭を備えた茶室を造りました。そして慶安5年（1651）裏千家仙叟を招き、三の丸に屋敷を与え、茶道指南役としました。仙叟は利常の文治政策を助け、家臣はもとより町人に広く茶の湯を指導し、北陸での今日の茶道隆盛の基礎を築いたのです。

一方利常は産業振興の一端として茶の生産を奨励しました。命を受けた長谷部理右エ門は山城の国（現京都府）から茶の苗木と茶種を買入れ、瀬領と金平の地に茶畑を開きました。以来、代々工夫と研究を重ね、能美郡、江沼郡にまで生産地を広げ、「加賀茶」の名が高まりました。

芦城公園 map-2

小松城三の丸跡地に造成された池泉回遊式公園です。明治初期に城内の建物が取り壊される中、小松の人々の広場を残したいとの思いから造園が始まり、小松城の別名を取り入れ「芦城公園」と名付けられました。園内には茶室、玄庵などの文化施設や、二つの池と滝、それを結ぶせらぎや築山もある公園となっています。園内には利常公の銅像もあります。



前田利常公像



茶の湯と町人文化

仙叟屋敷ならびに玄庵 map-1

せんそう

茶道裏千家15代鵬雲斎宗室が、4代仙叟宗室没後300年を記念して、平成9年に小松市へ寄贈されたものです。木造瓦葺平屋敷寄屋造りで、家元自らが「仙叟好み」の趣を現代風に設計しました。茶庭は仏教の「九山八海」を表し、野点もできるしつらえになっています。広間と茶室は市民茶会などに活用され、茶道文化の広がりにも貢献しています。



長保屋 map-3

北陸で最古の茶生産のお茶屋さんです。慶安年間（1648～52）に茶の栽培を始め、前田利常より茶名「金の香り」、「谷の音」を賜りました。長保屋の屋号は遠祖が長保年間（999～1004）に小松に住みついたことに由来します。



ユニークな茶壺の看板

錦窯展示館 map-4

錦窯とは上絵付の焼成に用いる窯のことです。展示館になっている建物は、九谷焼作家・徳田八十吉氏が三代にわたって工房兼住居としていた建物です。かつて使用されていた錦窯を直に見ることができ、人間国宝の作品や資料が多数展示されています。



小松市立博物館 map-5

県内初の公立登録博物館として昭和33年に開館しました。当地方周辺の自然、民俗、歴史工芸品等を紹介しています。館内には市の指定文化財等も展示されています。



本陣記念美術館 map-6

小松市出身の本陣甚一氏が所蔵していた美術品を小松市に寄贈され、平成2年に開館しました。江戸時代の蔵を現代風にアレンジしたユニークな円筒形の建物は故黒川紀章氏の設計です。



宮本三郎美術館 map-7

「色彩の魔術師」「デッサンの天才」宮本三郎は小松市松崎町に明治38年に生まれました。建物は絹織物の収蔵庫として利用された蔵とガラス張りの2棟からなり、色彩豊かな美の世界を堪能できます。



小松天満宮 map-8

社殿は国の重要文化財

加賀藩三代藩主前田利常が小松城に隠居中の明暦3年（1657）に名工山上善右衛門を棟梁として建立した京都北野天満宮の末社です。初代宮司には連歌師の第一人者で、京都で公家や公卿に指導していた能順が招かれました。境内には重要文化財の社殿をはじめ海上交通の安全を祈願する「撫で牛」や、芭蕉の句碑、十五重石塔などがあります。梅林院は明治期に茶室として改築され、今日に至っています。梯川拡幅工事完成時には浮島となり全国的にもまれな景観を呈します。



すわまへ芭蕉公園 map-9

毎年5月に行われるお旅まつりで知られる菟橋神社の前にある公園。松尾芭蕉が歿生宅で詠んだ発句「ぬれて行や人もをかしき雨の萩」と、句会に同席した小松の俳人たちが詠んだ五十韻を刻んだ句碑があります。



こまつの歴史と文化

小松は文献によると平安時代から絹織物の生産が盛んなところでした。その後幾多の武将達の攻防のドラマを経て、江戸時代寛永16年から19年間に亘り加賀藩主前田家三代利常の治世となります。

利常は文治政策を旨としたので、この間、町民の文化は花開き、茶の湯、浄瑠璃、謡曲がさかになりました。また5月中旬に開催される「お旅まつり」は360年の歴史を持ち、なかでも曳山子供歌舞伎は圧巻で、250年の間、人々を魅了し続けています。



小松城址

編集

小松観光ボランティアガイドの会「ようこそ」

お問い合わせ

（一社）こまつ観光物産ネットワーク
TEL 0761-21-8208 FAX 0761-21-8218
〒923-0921 石川県小松市土居原町710
（こまつ芸術劇場うらら内）



まるごと・こまつ・旅ナビ
<http://www.komatsuguide.jp/>

小松市観光交流課
TEL 0761-24-8076 FAX 0761-23-6404
〒923-8650 石川県小松市小馬出町91

曳山と町家

こまつ曳山交流館 みよっさ

map-10

子供歌舞伎が上演される豪華絢爛な曳山2基が常設展示されています。舞台と客席を併せた48畳の稽古場では、練習風景や様々な催しを楽しむことができ、見て聴いて「小松の伝統」を満喫できます。



松雲堂 map-13

明治創業の九谷窯元「松雲堂」。昭和7年の小松橋南大火後の建造物で、当時のこまつの町家の様子を踏襲しており、窯場には実際に上絵付けに使用された錦窯が残されています。(見学は要予約)



鈴木家(中町) map-14

元禄年間から続く旧家で、明治時代に生糸問屋を創業。昭和5年の橋北大火後に建てられた茶室を備えた切妻造りの豪華な家です。道路沿いに商売用の蔵(袖蔵)を持つ小松の典型的な織物・生糸問屋の建物で、国登録有形文化財に指定されています。(個人宅の為、外観のみ見学可)



歴史的町並み・材木町 map-11

昭和5年の大火で焼失した後に再建された町家が約80%現存している貴重な町並みです。切妻平入造り、格子戸(虫籠)などを備えた建物が多くあります。ガイドラインを設け、行政と協力して歴史的町並みの保存を進めています。



とら屋陶器店 map-12

日展九谷焼作家が営む昭和7年の橋南大火後に建てられた建物です。一階は改修されて小物を販売しています。二階は一般に開放されており、襖絵や朱色の壁の座敷、昔のままのガラス窓、精緻な調度品など趣向を凝らしています。



曳山

毎年5月に開催されるお旅まつりで豪華な曳山を舞台に子供歌舞伎が上演され、250年の伝統文化を今に伝えています。美術工芸の粋をこらした曳山は8基現存し、大きさは幅約3m、奥行7m、高さ7m前後。台輪はけやきを主体とし、柱は松材、長押から上は桐と杉、屋根は和紙を使っています。このように下に重い材質、上に行くほど軽い材質を使い安定感を保っています。永年にわたり手を加え修繕し、次代に継承されています。

お旅まつりの折に全8基勢揃いし、ライトアップされる姿はとても優美です。

